

インドデスクレポート（2025 年 11 月）

<インド概況>

ノイダ空港付近の新規プロジェクトに日本の中堅企業 2 社が投資を決定

共和レザー株式会社（本社：静岡県浜松市）とメイラ株式会社（本社：愛知県名古屋市）は、ヤムナ高速道路工業開発公社（YEIDA）がウツタル・プラデシュ州のノイダ国際空港近くで開発を進めるヤムナ・エクスプレスウェイ工業団地にそれぞれ 40～45 億ルピーを投資することを決定した。合成皮革製造で知られる共和レザーは、インドのクリシュナ・グループと合併で工場を設立する。同社は 10 エーカーの用地に約 40 億ルピーを投資し、マルチ・スズキやトヨタ向け自動車内装用合成皮革を製造する計画だ。

高精度ナット・ボルトの専門メーカーであるメイラは、ボルト製造施設設立に向け約 40～45 億ルピーを投資する意向だ。同社は約 10 エーカーの用地を申請しており、工場完成後は 10 月のレポートで紹介したエスコーツ・クボタの新工場など、同地域で拡大するトラクターや機械装置産業のエコシステムを支えることを目指す。

なお、エスコーツ・クボタの新工場は、190 エーカーの土地取得について原則承認がおりており、450 億ルピー規模の製造工場を建設する計画。このプロジェクトでは約 4,000 人の雇用創出が見込まれ、地域の産業成長における主要なアンカー企業となるだろう。

こうした動きと並行し、YEIDA は大規模な産業クラスターの整備も進めている。これは、国際メーカーの誘致を目的とした統合型産業タウンシップとして計画されている、976 エーカー規模の「ジャパニーズ・シティ」、902 エーカー規模の「コリアン・シティ」が含まれる。

同じく 10 月のレポートで報じた YEIDA とメディカル・エクセレンス・ジャパン（MEJ）との覚書締結も最終段階にあり、ノイダ国際空港周辺で国際競争力のある産業エコシステムを構築するという YEIDA の戦略が実現しつつある。

【デスク解説】

共和レザーとメイラによる投資計画は、ヤムナ・エクスプレスウェイ工業団地に対する日本メーカーの信頼感の高まりを示している。これらのプロジェクトは、現地の自動車・機械サプライチェーンを強化すると同時に、ウツタル・プラデシュ州に先進的な製造能力をもたらす。稼働開始が待たれるノイダ国際空港への近接性は、輸出志向型産業にとっての同地域の魅力をさらに高める。

アイシン、マハラシュトラ州の工業団地内に 21 エーカーを 95 年間リース

株式会社アイシン（本社：愛知県刈谷市）のインド法人は、マハラシュトラ州チャトラパティ・サンバジナガル（旧オーランガバード）にあるシェンドラ工業団地において、21 エーカーの土地を 95 年間にわたり賃借する契約を締結した。

アイシンは、インスピラ・リアリティ・グループがシェンドラ工業団地内に開発した民間のインダストリアルパークに工場を建設する予定。インスピラ・リアリティにとって、これは 2 番目に大きな賃貸契約であり、日系企業としては、日本発条株式会社の子会社である NHK スプリング・インディアに次ぐクライアントとなる。

駆動系、ブレーキ、シャシーシステムを世界の主要な自動車メーカーに供給するティア 1 サプライヤーであるアイシンにとって、グルガオンに続くインド国内 2 番目の工場となる。

この地域には既にシュコダ、アウディ、フォルクスワーゲン、バジャージ・オートといった自動車産業の主要ブランドが進出していることに加えて、トヨタも新たな製造工場の設立を計画しており、自動車産業クラスターがさらに強化される見込みだ。

アイシンの今回の拡張は、インド政府が推進する「メイク・イン・インド」や生産連動型奨励金（PLI）制度など、製造業育成に向けた広範な施策と合致している。サムルディ・マハマルグ高速道路沿いの戦略的立地に加え、ムンバイ・ナグプール、さらに建設中のジャルナ・ドライポートへのアクセスの良さもあり、海外への輸出を考えたときに物流効率の優位性がある。

【デスク解説】

アイシンがシンドラ工業団地で長期賃貸契約を結んだことは、インドの製造エコシステムに対する日本自動車部品メーカーの信頼感の高まりを示している。マハラシュトラ州や同地域を選ぶ大手企業が増えることで、サプライチェーンの深化や雇用創出が加速することが期待されている。今回の投資は、先端製造業の有望な進出先としてのインドの勢いをさらに裏付けることになるだろう。

カルナータカ州政府、トゥムクルに第 2 の日本工業団地建設計画を発表

カルナータカ州政府は、ベンガルールの北西に位置するトゥムクル、ヴァサントナラサプラに第 2 の日本工業団地を建設する計画を発表した。300 エーカーにわたるこの新工業団地は、チェンナイーベンガルール産業回廊（CBIC）沿いという戦略的な立地で、より多くの日本企業の誘致を目指している。この発表は、ベンガルール商工会議所（BCIC）が主催した第 3 回インド・日本ビジネスサミット（IJBS）において行われた。

このプロジェクトの開発はカルナータカ州工業団地開発局（KIADB）が担当。正式な覚書（MoU）が近く締結される見通しだ。商工省によれば、インドの製造業やテクノロジー分野への進出を目指す日本企業からの関心が高まっていることから、今回の開発につながった。日本の企業にとっては、カルナータカ州の強力な産業エコシステム、ビジネスフレンドリーな環境、そして CBIC による優れた交通アクセスといった要素が魅力となる。

ヴァサントナラサプラ第 2 期として計画される新工業団地は、自動車、電子機器、工作機械、精密工学の分野の企業を受け入れる見込み。日本のサプライヤーや製造業者がこの地域への投資を検討する中、高付加価値の外国直接投資を呼び込み、トゥムクル地域に大きな雇用機会を創出することが期待されている。このプロジェクトはインドと日本の経済関係を強化し、カルナータカ州が目指す主要な産業拠点への重要な一歩となるだろう。

【デスク解説】

日本向け第 2 工業団地は、日本の製造業投資にとってカルナータカ州の地位をさらに強固なものにしている。自動車、電子機器、精密工学分野の高品質な企業を誘致することが期待されており、実現すれば雇用創出、技術移転、より競争力のあるサプライチェーン・エコシステムの構築に寄与するだろう。

以上